

## 平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立諸富北小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

### ■ 調査期日

平成29年4月18日(火)

### ■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

### ■ 調査の内容

#### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A、算数A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B、算数B〕
<ul style="list-style-type: none"><li>身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容</li><li>様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容</li></ul>

#### (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

### ■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

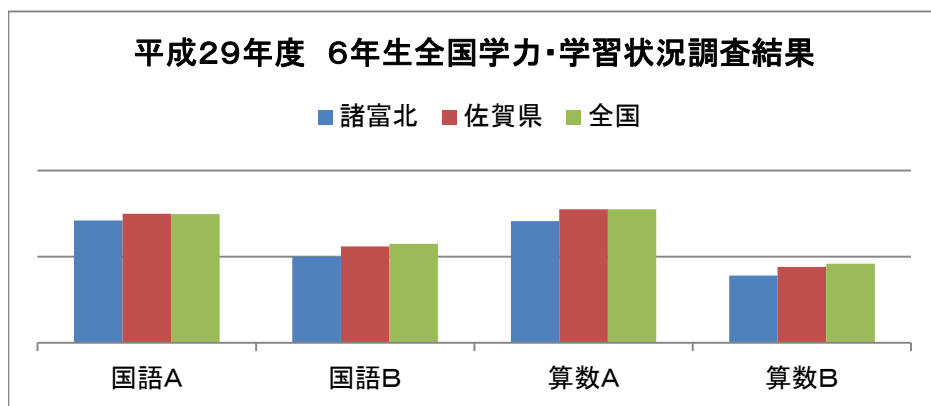
# 平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果分析・考察及び今後の対策

佐賀市立諸富北小学校

## 【6年生全体の結果】

どれも県平均と全国平均を下回っています。特に算数Aは、県平均と全国平均が同じであるのに対して、本校6年生は大きく差がつかしました。

(数値は、平均正答率%)



## 【国語 A の結果】

国語 A は、主として知識をみる問題です。

### 読む

県平均とは大きく差がつかしました。目的に応じて文章の中から必要な情報を見つけて読む力が不十分でした。

### 知識・理解・技能

県平均・全国平均ともに下回っていますが、漢字の読み書きはよくできているものもありました。歌舞伎の作品を音読して気づいたこと(言葉の響きやリズムなど)を、説明として適切なものから選択する問題でしたが、正答率がきわめて低かったです。

今回出題された、古典や俳句やことわざなどに、慣れ親しませたり、意味を理解させ自分の表現に用いらせたりすることが必要だと考えています。

### 書く

設問は、お礼の気持ちを伝える手紙の書き方に関するものでした。相手意識・目的意識を持って書くために必要な能力を問う設問です。いずれも選択問題ですが、県平均・全国平均を上回る正答率でした。手紙の後付け(手紙の最後につける内容)には、著者、宛名、日付けが適切な位置に必要です。最近、メールや電話が連絡の手段として圧倒的に多いのですが、手紙を書く経験を通して知識・技能を今後も定着させたいものです。

### 話す・聞く

設問数が1つだけですが、県平均や全国平均を下回りました。設問の概要は、学級文庫のタイトルを決めるための話し合いをし、そのことを報告するための説明として適切なものを選択するものです。話し合いの目的、内容が理解できていない児童がいました。

今後は、全ての観点を総合的に伸ばしていかなければなりません。例えば、国語科の時間にも積極的に話し合い活動の時間を設け、それぞれの「読み・書き」について、自分の考えと比較しながら聞き取り、意見を発表するなどの活動を取り入れていきます。さらに、テーマ作文や家族や地域の方々へのインタビューなどを宿題で取り組ませるなど、家庭学習にも工夫が必要です。基礎的な内容に関しては、漢字の先取り学習、ローマ字の復習、辞書引きなどで語彙を増やす学習を行っているモジュールタイムを継続・徹底していきます。

## 【6年生 国語 B】

国語 B は主として活用に関する能力をみる問題です。

**関心・意欲・態度** 県平均・全国平均を上回りました。無回答も少なく、何とか答えを導き出そうとする意欲がみられました。

**話す・聞く** 「スピーチメモのよさを捉える」ことを苦手とする児童が多かったです。

**書く** 特に条件付きで解答することにつまずく児童が多くみられました。

**読む** 4 ページの長い文章を読む問題のため、話の内容や意図を的確に捉えることが不十分でした。

今後は、音読や読書を通して読解力をつけさせる必要があります。また、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉えられるよう指導を工夫していきます。さらに、条件付き問題に応じるために、授業の中にも「～字以内で」「～という言葉を使って」などを指示し、問題解決する場を設定していきます。

## 【6年生 算数 A】

算数 A は、主として知識をみる問題です。県平均や全国平均を下回りました。

特に、立方体の展開図から、示された面と平行な面を選んだり、資料から二次元表の合計欄に入る数を考えたりする問題につまずく児童が多かったです。

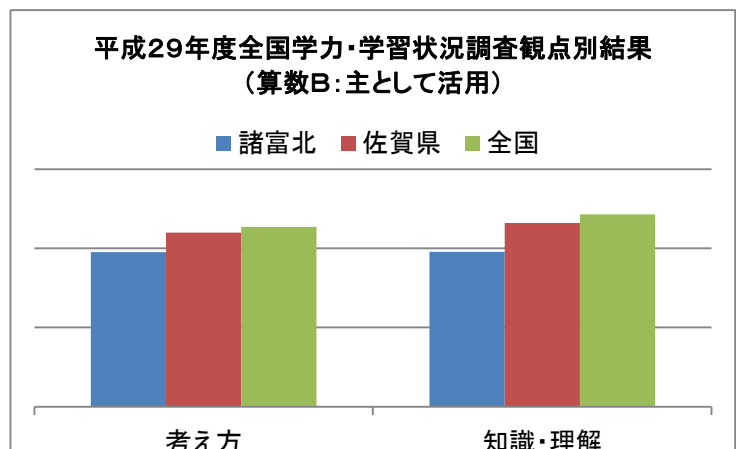
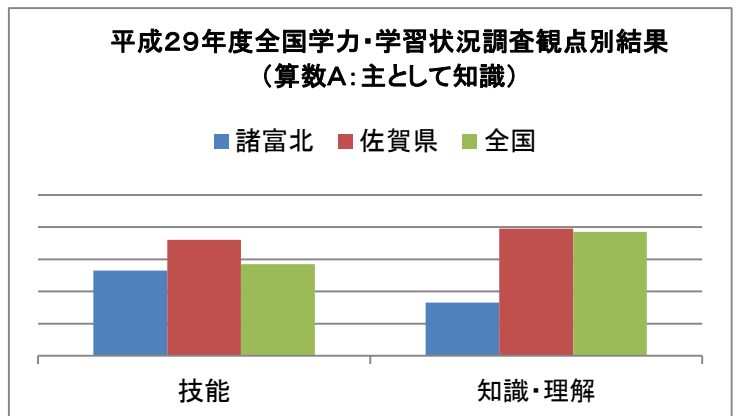
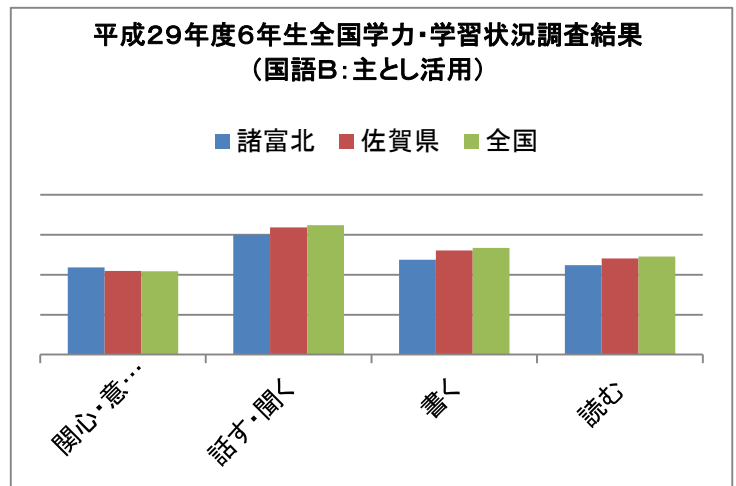
一方、小数と整数の計算や加法と乗法の混合した整数と小数の計算などはよくできていました。今後も、百マス計算タイムやモジュールタイムで学習の基礎・基本を徹底していきます。

## 【6年生 算数 B】

算数 B は、主として活用に関する能力をみる問題です。「考え方」「知識・理解」のどちらの観点も県平均や全国平均を下回りました。

正答率が特に低かったのは、仮の平均の考え方を活用して測定値の平均を求める問題で、県平均・全国と大きな開きがありました。平均や割合の意味を理解し、それを活用して答えを導き出したり、表やグラフと関係づけて考えたりすることが不十分でした。

今後は、各領域の系統性を考慮し、既習事項を積極的に活用していこうとする意欲を育てていきます。そのために、課題提示の工夫や話し合い活動を充実させることで思考の広がりや深まりを感じとらせませす。また、授業終末には発展・応用的な課題を提示しながら、学習したことを活かして取り組めるような家庭学習へとつなげていきます。



## 《児童質問紙の結果について》

### ① 話し合い活動について

「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」という問いに「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童は、本校は、県や全国と比較するとやや消極的な回答でした。

一方「友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができますか」の問いには「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童は90%を超えていました。

本校では、日々の授業に話し合いの場を設けるようにし、考えを交流して学び合う学習活動を行っています。このことが、少しずつではありますが、相手意識を持って話を聞く姿勢につながってきたと言えます。

友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか				
	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
諸北小 (%)	7.3	34.5	50.9	7.3
佐賀県 (%)	19.4	28.7	33.3	18.5
全国 (%)	21.6	30.6	32.3	15.4

友達と話し合うとき、友達の考えを受け止めて、自分の考えを持つことができますか				
	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば 当てはまらない	当てはまらない
諸北小 (%)	47.3	45.5	5.5	1.8
佐賀県 (%)	42.2	43.2	12.4	2.2
全国 (%)	42.5	43.0	12.3	2.1

### ② 家庭学習について

家庭での学習時間が1時間以上2時間未満は県や全国とほぼ同じですが、2時間以上となると少なくなります。また、「30分未満」「全くしない」という児童もわずかながらみられます。

さらに、土・日曜日の学習時間はおよそ半数の児童が、1時間未満です。家庭での学習時間が短いことが分かります。特に「全くしない」という児童が平日に比べて多くなっています。

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらい時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）						
	3時間以上	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	30分未満	全くしない
諸北小 (%)	5.5	12.7	38.2	36.4	3.6	3.6
佐賀県 (%)	8.2	14.8	38.8	25.8	8.1	3.3
全国 (%)	11.9	15.2	37.3	24.3	8.4	2.8

土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらい時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）						
	4時間以上	3時間以上 4時間未満	2時間以上 3時間未満	1時間以上 2時間未満	1時間未満	全くしない
諸北小 (%)	1.8	5.5	10.9	29.1	41.8	10.9
佐賀県 (%)	3.8	4.4	12.8	33.0	35.7	10.0
全国 (%)	7.1	5.1	12.4	32.7	32.9	9.7

保護者の方々による宿題チェックのお願いや「家庭学習の手引き」の活用を強く進めていかなければなりません。宿題は必ず行うこと、さらに自主学習にも取り組むようにすること、これらについて保護者の協力を得ることが早急の課題です。

### ③ 家庭での読書時間について

家庭での読書の時間が、平均30分を超える割合は、本校54.5%、県35.7%、全国36.5%で、県・全国を大きく上回っています。しかし、「10分未満」「全くしない」という児童も12.7%おり、「読書をよくする児童」と「読書をあまりしない児童」がはっきりと分かれています。

学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をするか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）						
	2時間以上	1時間以上 2時間未満	30分以上 1時間未満	10分以上 30分未満	10分未満	全くしない
諸北小 (%)	10.9	10.9	32.7	32.7	7.2	5.5
佐賀県 (%)	6.2	9.5	20.0	28.7	16.0	19.3
全国 (%)	6.9	9.9	19.7	26.8	16.1	20.5

本校では、1人100冊借りることを目標とし、また、良書50選の完全読破を目指す呼びかけも行っています。さらに、読書タイムの充実を図ったり読書の魅力を伝えたりしながら、児童に読書の楽しさを体験させられるよう指導の工夫を行っていきます。

## 諸富北小 学力向上の取り組み

### I 国語科を中心とした学力向上

#### ○思考力・表現力を高めるための方策

- ・課題提示の工夫・・・思わず書きたくなるような課題を提示したり、場面を設定したりします。また、既習の「書くための観点」や「モデル」などを活用させることで、学習への見通しを持たせます。
- ・話し合い活動・・・効果的な表現や工夫について話し合ったり、互いのよさを伝え合ったりする話し合い活動に取り組みます。友達の表現を自分に活かし、よりよい表現や思考を共有しながら学びます。

#### ○知識・技能向上のための方策

- ・「国語スキル」では、テーマにそった作文や日記の書き方を学習するなど、書くことの基礎基本を学習しています。
- ・習得した知識・技能を活用できる場の設定  
→相手意識・目的意識をもって書いた作文等は、発表会や交流会等の場を設定することで、伝える楽しさやよさを味わわせ、書くことへの意欲を高めさせます。

### II 家庭との連携

- 家庭での学習習慣の定着をめざし、「家庭学習強化週間」を実施しています。諸富町内三校で作成した「家庭学習の手引き」には、家庭学習の進め方、学習の内容や量の目安、準備する学用品等について詳しく書かれています。この手引きをぜひ活用してください。
- 親子読書を奨励しています。特に、ノーテレビ・ノーゲームデーの日には、ぜひ取り組んでいただき、「親子読書カード」へのひとこと感想を保護者の方にもお願いしています。
- 宿題の他に、全学年で自主学習に取り組んでいます。参考になる「自学ノート」を校長室前掲示板に貼っています。来校の折に、ぜひご覧ください。

### III その他

- 落ち着いて学習に向かえるよう、授業前の黙想に全校で取り組んでいます。
- モジュールタイム（国語・算数の基礎基本学習）では、級外職員を学年・学級に配置し、個別指導にあたっています。
- 音読発表会や漢字検定などを実施するなどし、朝の時間やモジュールの時間（毎週水曜日1校時）に取り組んでいる学習の成果を発揮できる場を計画しています。